

5月25日(月)に緊急事態宣言が解除され、本日より学校も再開されました。これまで静まりかえっていた校舎にも徐々に活気が戻ってきました。とはいえ4月の始業式・入学式と25日の登校日のわずかな時間しか顔を合わせていないので、教室に入ってもどこか緊張気味といった雰囲気は漂っていました。ともあれこれから本年度の学校生活が本格的に始まります。学校行事等の延期や中止など様々な制限や制約もありますが、着実に歩みを進めていきましょう。

そんな中、部活動については残念な連絡が来ました。25日に配布した「ゆずりは」にも掲載しましたが、中体連の夏の大会や音楽系を中心とした各種コンクールが、本年度はほぼ中止になったとのことです。どの部活動でもこれらのテストマッチを目標に活動に励んで来たことと思います。その目標がなくなってしまったことは本当に残念でなりません。中学校生活の中で楽しみにしている活動の上位を占める部活動ができなくなることで気持ち(例えばやる気など)が後ろ向きになってしまわないか、特に3年生が気がかりでなりません。練習の成果を発揮できる場がなくなってしまった悔しさはあると思いますが、皆さんが早くこの悔しさを乗り越え、前を向いて歩みを進めてほしいと願っています。



「現時点でできることに集中する」とは、NBA(全米プロバスケットボール)で日本人2人目のプレイヤーとなった渡邊雄太さんの信条だそうです。渡邊さんは中学生時代成長痛に悩まされ、練習ができない時期が長く続きます。どんどん上達していく仲間との差を感じながらも、膝に負担がかからない練習を考え、その一つに「高くジャンプしないで素早くシュートする」ことに取り組んだそうです。今、自分よりはるかに背の高い本場のバスケットボール選手と互角に戦えるのは、あの中学生の時のシュート練習があったからと渡邊選手は語っています。そして「現時点でできることに集中して取り組んでいけば、それは必ず将来生きてくる」と断言しています。

3年生の皆さんは、これまで取り組んできたことが将来の自分に必ず役に立つはずです。どうかそれを信じ、まずはこの1年を過ごしてください。1、2年生の皆さんは、部活動はこれからですが、渡邊さんのように一つ一つの課題に精一杯挑戦する姿勢を大事にこの1年を過ごしていきましょう。

